

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	社会的養護アフターケア事業
資金分配団体名:	公益社団法人ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	特定非営利活動法人 こどもの里
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	大阪府(大阪市西成区釜ヶ崎を中心に)
事業対象者:	社会的養護を必要とする若者、子ども、親

Version 3.2

日付: 2022年3月20日

## I. 事業概要

事業実施概要	「こどもの居場所」であるこどもの里で関わる要支援、要保護家庭の親子（主に母子）や社会的養護の施設出身の若者たちへの相談支援、伴走支援、訪問支援を行った。コロナの影響による家庭や若者の孤立化を防いだ。当事者を中心とした家族応援会議を定期的実施した。必要な場合には食糧支援やコロナ対策物資の支援を行い、行政サービス、医療サービスへとつなげた。また、コロナの影響により居場所を失った若者のための緊急一時宿泊所を準備し、住環境を保障した。よりよい支援を行うためにスタッフは研修を行い、話し合いを重ねた。コロナの感染拡大によるこどもの里の支援活動を行うことが難しい時期（感染拡大期）があり、その状況下での支援のあり方が問われた。
--------	---

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	当初、こどもの里で関わる当事者に対してのアフターケアの対応件数について、想定していたよりも多くの相談が入り、新型コロナの影響で孤立する家庭や若者が多いことを実感した。事業を通して本当に多くの関わりを持つことができた。 また、虐待による精神的な病気を抱えた20代の若者の緊急入院や家庭でのしんどさを抱えた若者の家出など、社会的にはみだしてしまう(自己責任とされる)当事者に対して寄り添った支援をすることができた。さらに、トラブルを起こすことなくなんとか生活できている当事者に対しても、今回の助成事業による食料・コロナ対策物資支援などができることによって、積極的に改めて関わりを持つことができた。“困った時に助けてくれる、頼ってもよい居場所”として社会的養護の当事者に対してアピールすることができた。ただ、コロナウィルスの感染拡大に伴い、多人数が集まる“家族応援会議”が思うように実施することができなかった。今後はZOOMなどのオンラインを使った方法について模索すると同時に、ケアの質がどうであったか当事者にインタビューすることなども検討していきたい。
-------------------	---

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(定量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
子ども・学生	居場所の不足	こどもの里で生活相談をする	相談支援件数	相談支援件数320回 (月40回×8ヶ月)	相談のべ件数 935件 (月平均117件) 100%	当初計画していたよりも件数が多かった。自分たちが想定しているよりもアフターケア活動のニーズの高さがある
子ども・学生	居場所の不足	こどもの里で関わった若者や家族の家へ訪問する	訪問支援件数	訪問支援件数40回 (月5×8ヶ月)	訪問支援のべ件数 93件 (月平均12件) 100%	生活相談件数と同様ニーズが高かった。
子ども・学生	居場所の不足	こどもの里で関わった若者や子ども、親に伴走する	伴走支援件数	同行支援件数64回 (月8回×8ヶ月)	同行支援のべ件数 79件 (月10件) 100%	想定よりもニーズは少し高かった。同行支援の中には役所など行政など手続きや引っ越しの手伝いなどの日常的な活動もあれば、緊急時の入院対応などがある。
子ども・学生	居場所の不足	家族応援会議をする	家族応援会議回数	家族応援会議回数32回 (月4回×8ヶ月)	家族応援会議のべ回数11回 (月1回) 34%	当初計画していた回数を下回った。多人数で集まるのでコロナの感染防止のため中止したこともあり、開催方法を検討する必要があるかもしれない。
生活困窮者	食料関連の不足	生活困窮、地域で孤立している若者や家族に対して適宜必要な食料やコロナ対策物資の支援を行う	食糧・コロナ対策物資支援件数	食糧・コロナ対策物資支援件数40回	食料・コロナ対策物資支援のべ件数 83回 100%	物資支援はアフターケアを必要とする当事者には非常に喜ばれた。関わるきっかけになり、定期的に支援することは関わりをを広げ、直接支援になるので今後もずっと続けていきたい。
その他	その他	こどもの里スタッフがスキルアップ研修を受ける	研修回数	研修回数4回	研修のべ回数 4回 100%	計画通り実施することができた。相談対応や家庭訪問等をしていると様々な背景を抱える当事者と関わるため、関わり方のフィードバックが必要で様々な分野の専門家の意見や研修は必須であると感じた。
子ども・学生	居場所の不足	こどもの里で若者たちが集まり、おいしい夕食を食べ、語り合い、絆を深める	本気で夕食会開催回数	本気で夕食会開催回数8回	本気で夕食会のべ開催回数 12回 100%	当事者たちが集まり、さまざまなテーマで語り合う場合は「そんな考えもあるんだ」という価値観が生まれ、多様性を育てる契機になったり、ピアカウンセリングにもつながる。
生活困窮者	就業困難	コロナなどの影響により、家に居場所がない若者に対して緊急一時宿泊所を提供する	緊急宿泊回数		緊急宿泊回数 124泊 (対象人数6名) 100%	緊急的に寝るところがない当事者に対して行うこの活動はとても重要度が高い。西成区など地元だけでなく他の地域からの相談もあった。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況 (事業計画から転記)	釜ヶ崎地域において、こどもたちの最善の利益が守られること。若者たちが生きづらさや課題を抱える若者や家族に対して伴走支援する活動をこどもの里で定着させること。当事者たちがコロナ禍によって孤立することなく、あきらめることなく自分の人生を自分で選んで生きていくこと。
考察等	7カ月間という短い期間ではあったが、様々な支援が必要な当事者に対して積極的な関わりができた。事業開始以前からこどもの里では元社会的養護当事者のアフターケア活動は実施してきたが、その活動は個々のこどもの里スタッフのボランティア的な活動によることが多く、実際の活動内容や活動量を把握することはできていなかった。しかし、今回この助成事業を実施したことでアフターケア活動の業務量や活動全体の内容を、法人全体で把握することができた。それによりアフターケアの必要性を職員全体が更に意識することができたので、それに伴い活動件数も増え、こどもの里を中心とするつながりを更に発展させることができた。

V. 活動

活動	進捗	概要
要支援家庭に対して、家族応援会議を行う	遅延あり	家族や若者の応援会議を実施できる時期もあったが、コロナの影響によるこどもの里の閉館（8月中旬、1月下旬）に伴い、スタッフが濃厚接触者になったため、あるいは、参加する支援者や当事者がコロナを発症した等の事情により、開催することが困難な状況があった。しかし、計11回開催できたことの意義は大きく、継続して応援会議を開催していく必要がある。
サポートが必要な若者の通院、役所の手続きなど同行、相談支援をする	計画通り	基本的に”サポートが必要な当事者”には家族による支援がない。その代わりとしてこどもの里スタッフが通院時の同行をしたり入院時の手続きや準備物の用意を一緒にする。シングルマザーの公営住宅への申込みや役所への手続きなどをサポートすることは当事者が当然保障されるべき社会的サービスのはずである。こどもの里職員はその橋渡しを担っており重要な役割である。
「こどもの里」で母子家庭や若者、こどもの相談支援を行う	計画通り	こどもの里は「こどもの居場所」であるが、その中で基本的な活動が「相談活動」である。こどもの話を聞く、親御さんの話を聞く、若者の話を聞く、こどもの里にやってくるさまざまな状況にある当事者に関わるための活動である。7ヶ月の助成期間も相談活動を実施することができた。
コロナの影響によって経済的に厳しく、孤立化している若者や家庭に適宜食糧支援、コロナ対策物資支援を行う	計画通り	今回の助成事業で食糧支援の重要性を痛感した。これまでこどもの里では相談や伴走支援などをするにはあったが、食糧支援を積極的に行うことは少なかった。今回、積極的に当事者と連絡をとり、適宜食糧支援をしたことは当事者にとっても喜ばれ、支援者もエンパワメントされた。当事者の基本的な「食」を保障することは確実に必要で、つながりを強くすることで孤立の解消に繋がった。
コロナの影響によって家で居場所をなくした若者に生活する居場所を用意する	計画通り	様々な相談の中で「今日、明日寝る場所がない」という切実な相談が時々入る。西成にあるシェルターを紹介することもあるが1泊ごとに出ないといけず、不安定な緊急宿泊となる。今回の助成金により簡易ホテルを1〜3か月提供することができた。その間に新たな仕事や住環境を探すための時間を保障することができた。人間の基本的な生活に必要な「住」を保障することができた。
スタッフ研修やスタッフ間の支援会議を適宜おこなう	計画通り	スタッフ研修ではアウトリーチする際の話の聞き取り方（リスニングスキル）や支援をするときに問題ではなく”何ができるか”に焦点をおいて関わる解決指向ブリーフセラピー、自分の関わり方を知るためのエゴグラムなど、多くのことを学ぶことができた。研修内で実際に実践練習をすることが特にスキルアップにつながっていると感じた。
本気で夕食会を開催する	計画通り	本気で夕食会ではさまざまなテーマで本気で食べ、語り合うことができた。普段、あまり当事者同士で交流することのない関係にある若者が”そういう考えだったのか””そう感じていたのか”を互いに率直に伝え、聞くことで、互いを認め合う土壌を作ることができている。また、男女の性に関する必須の知識や将来の一人暮らし計画など社会に出てから役に立つことを伝えることができています。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	40年以上前から大阪釜ヶ崎で活動している中で自然と行ってきた”困っている人に関わる”ことを自分たちで再評価することができた。事業計画で想定していた活動を上回る指標数値に、自らの活動ながら驚くとともにアフターケア活動の必要性を再認識することになった。当事者と関わるスタッフが以前よりもアフターケア活動に力を注ぐようになっていく傾向があると現場で感じている。また、こどもの里を離れてからあまり連絡をとることをためらっていた当事者に対しても、食料支援などを理由に連絡をし、近況を聞いたりすることができ、よりアフターケア活動の幅が広がった。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	社会的養護下で育った当事者や支援が必要な地域の若者や親子への関わりは、今後も必要なことに変わりはない。当事者は当然、一人の人間としてそれぞれの人生を歩んでいるわけであり、若者であれば妊娠したり家族をもったりするので、自身への向き合い方だけでなく、更に子育て相談に対する支援等も必要となってくる。そして新型コロナウイルスによる影響はとて大きく、特に感染が拡大している時はとても生活状況が厳しくなりやすい。今現在（3月下旬）は落ち着いてきている。コロナの影響が小さくなると家族応援会議やキャンプなどの大人数が集まる場をより多くつくっていきたく考えている。また、当事者と関わる支援者の育成と人材をさらに発掘していきたいと考えている。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
子どもセンターぬっく	「居場所がない子ども110番」という相談窓口を弁護士さんを中心にされており、そこに来る相談に基づき、まずはシェルターの提供を行った。7ヶ月の間に2ケースと関わった。
大阪市子ども相談センター（中央、南部）	当事者の子どもが施設に住んでいるケース（子どもへの訪問や面談）への付き添い、子どもの一時保護の相談、
大国保育所、ケアマネージャー	支援が必要な家庭のこどもの里利用の相談から週末の利用が決まる。
京都府家庭支援総合センター	家庭に居場所がない若者の相談からステップハウスへの見学同行
病院	精神的に不調をきたした（幻覚、妄想を見たり聞いたりして日常生活が営めない）若者の入院手続き、以前にこどもの里に住んでいた親の入院手続きや経過お見舞い、

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	3,530,120	3,386,832	95.9%
	管理的経費	2,000	2,000	100.0%
合計		3,532,120	3,388,832	95.9%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	2021年度のこどもの里事業報告書にアフターケア活動を掲載する予定です（2022年度中）。

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		定款（総会、理事会など法人の運営に関する規定など）、就業規則（コンプライアンスの遵守、利益相反防止、倫理など）、給与規定など整備しています
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	現在、公開できるよう調整中
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	

②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	現在、定期的に行うことを計画中
3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	現在、定款、給与規定を公開できるよう調整中
4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	いいえ	現在、設置準備中
5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査	
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	